

健康づくりと環境美化運動

啓発作品

作文の部

「ゴミを調べて」

浅田小

末廣教継くん

(殿村新開)

一学期に、春の遠足で中部環境施設工場へ行きました。そこで、ゴミはたくさんあるなあと思って、びっくりしました。ゴミをためている所や、焼く所を見ました。大きなえんとつもありました。

夏休みにゴミについてもう一度くわしく調べたくて、三隅町のゴミがどうなっているかを調べ直しました。

まず初めに、との村にゴミを集めに来たおじさんたちに聞いてみることにしました。「一番こまることは、何ですか。」

と、たずねると、「水分が少なければいいなあ」と言っていました。ぼくは、ゴミぶくろの中には残飯や生

ゴミが多いんだらうなあ、だから水分がいっぱいなんだらうなあと思いました。

次に、役場に行つて調べました。ゴミの量は、ぼくには想像できないほどでした。役場で話を聞いた後、さっそくお父さんと、お母さんといっしょに、三隅町内のゴミステーションを見て回りました。97ヶ所もありました。調べてみると、いろいろな形のゴミステーションがあることに気がつきました。

ふたがあるゴミステーションは、ゴミをカラスや野ら犬にあらされないけれど、ゴミをそのままほっかけてあるふたなしは、せつかく捨ててもあらされてしまうので、よけいきたなくなつて、ゴミを捨てたいみがなくなつてしまふなあと思ひました。

その次に、集めたゴミの行き先をもとめて長門のしょうきやく工場へ行きました。ゴミをもやしているおじさんの話だと、水分が多いからもちやすがたいへんだという話で

した。お母さんが「水分が多いともえにくい。すると、ねん料の重油を加えないといけないから、すぐくねん料がいるんよ。」とわかりやすく話してくれました。おじさんは、「今使っている物は、ぼろぼろになるまで使つて、リサイクルできる物はリサイクルしてほしい。」とも言ひました。

ぼくは、ゴミの量がへると環境のためにいいなあと思ひました。

あつちこつち調べ回つてくたくたになつたけれど、いろんなことがわかりました。

ぼくは、ぼくが住んでいるこの三隅町がいつまでも美しいように何ができるかなあと考えました。

ぼくは、物を大切に使つて、ゴミを出さないようにしよう、リサイクルできるものは進んでリサイクルしようと思ひました。

お母さんも水切りをしてゴミを出そう、ゴミステーションをよごさないようにしようと言ひました。

三隅町の美しさを残してきたいです。

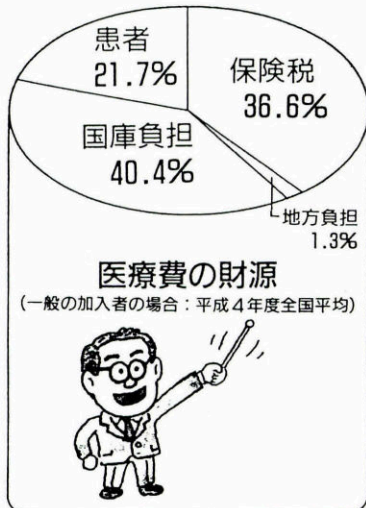
※この作文は、平成4年度のものです。

広報みすみ
5. 7. 1

国保コーナー

保 険 税

～ 国保の大切な財源 ～



平成五年度 第一期納期限は八月二日(月)です

国保に加入した人には、保険税支払いの義務が生じます。納められた保険税は、国保の財源となり、みなさんが病気やけがをしたときの医療費、また助産費や葬祭費などの給付の費用にあてられます。

納税義務者は世帯主です。たとえ、世帯主が勤務先の健康保険に入つていて、国保の被保険者でなくても、家族のだから国保に加入していれば世帯主が納税義務者となります。納付書が届いたら、必ず期日までに納めて下さい。

平成五年度は、税率の改正はしておりませんが賦課限度額が五十万円になりました。

課税についてのご質問・納付についてのご相談は、役場環境保健課国保係へご連絡ください。(☎ 3-11900)